

看護過程論

必修 開講年次：1年次後期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：対象の健康問題を解決するために、アセスメント、看護問題の明確化、看護計画の立案、実施、評価の一連の“問題解決思考と行動”について、それを支える看護理論を用いながら、看護過程の実際を学習し、自己の課題を明確にする。

■**到達目標**：V. ヘンダーソンの看護の定義や概念に基づき、看護過程を展開するための基礎的能力を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎古都 昌子・大野 夏代・田中 広美・小田嶋 裕輝・檜山 明子

■**授業計画・内容**：

- 第1回 コースオリエンテーション、看護過程の定義と構成要素、事例の提示
- 第2回 アセスメント① 情報の収集、整理
- 第3-4回 アセスメント② 情報の分析・解釈
- 第5-6回 アセスメント③ 情報の統合、全体像の把握
- 第7-8回 看護問題の明確化、看護計画の立案
- 第9-10回 実施・評価
- 第11-14回 実施・評価（演習）
- 第15回 学びの報告会（グループ発表）、まとめ

■**教科書**：V. ヘンダーソン：湯楨ます他訳：看護の基本となるもの、新装版、日本看護協会出版会、2006。
秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践、第4版、ヌーヴェルヒロカワ、2013。
茂野 香おる他：系統看護学講座 専門分野I基礎看護学 [2] 基礎看護技術I第16版、医学書院、2015。

■**参考文献**：阿部俊子監修：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図 改訂版、中央法規出版、2014。
高木永子監修：看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント第4版、Gakken、2011。
井上智子・稲瀬直彦：緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 第2版、医学書院、2014。

■**成績評価基準と方法**：欠席・遅刻および課題レポート、グループワーク参加状況などから総合的に判断する。

評価方法	到達目標	評価基準	評価割合 (%)
レポートおよび発表(実技を含む)	◎	アセスメント60%、看護問題の明確化12%、計画立案12%、実施10%、評価6%で評価する。	100
出席	◎	2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：既習の全ての専門教育科目

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：本科目では、問題解決の一連の思考過程を個人課題とグループワークを組み込みながら、段階的に学んでいきます。講義・演習に参加して「自ら考える姿勢」が重要ですので体調を整えて欠席しないようにしましょう。基礎看護学臨地実習Ⅱを履修するためには、この科目の学習が基盤となります。積極的に参加して学習を積み上げてください。